若い世代の育成施策

第三小学校 第四保育所を建設

急増する人口の大半が若年層である関係上、とくに児童の増加は著しく、若い世代の健全育成をはかるため、義務教育では、教育の場における施設、設備をはじめ教育環境の向上を、また児童福祉施設の整備充実を期します。

まず、学校施設の整備ですが、向陽小学校では、前年度六教室の増築に引続いて、今年度三教室の増築を事業費千九百四十五万円をもって行ないます。これで学校としての基本施設である校舎、運動場、水泳プール、屋内体育館の整備も今年度で一段落となります。

また、第三小学校は、児童数の累増に伴って、新たに森本小学区森本に建設します。前年度中に用地補償も終わり、今年度は、建設事業費一億七千七百七十七万円を繰越、敷地造成工事、校舎、給食棟および付属施設新築工事を実施し来年四月に開校の予定です。

組合立乙訓中学校は、生徒数の増加に対応して、昭和四十六年度二千五百八十八人四十八学級が予想されます。したがって、新たに第二中学校を建設して、来年四月に開校することとし、前年度に大山崎町大字円明寺地内に用地を確保し、今年度は、事業費一億千八百二十七万円で整備、校舎建設をする運びとなりました。そのため、今年度分の本町負担分として、四千六百七十二万円のうち財源の都合上三千万円を計上しています。

一方、児童数の激増により乳幼児の保育所入所申込みが増加し、前年度に第三保育所を総額五千八百二十六万円で建設、ことし四月に開所しました。しかしながら、来年度には現在児童が満員となる状況ですので、新たに第四保育所（定員百二十名）を来年四月に開所することとし、ことし用地費、用地補償費、公共用地取得公社により買収を行ない、とりあえず第四保育所の建設費三千十五万円を計上しました。

また、児童の健全育成対策として、家庭環境に恵まれない低学年児童のために、学童保育所を設立していますが、第一・二学童保育所をあわせて二百三十五万円の予算を計上し、措置児童の増加に対応して、施設の増強をはかっていきます。

さらに、児童の健全な遊び場として、児童公園九カ所の新設と整備に百十万円を投じ、遊び場の環境整備をはかります。

そのほか、幼稚園児の父兄負担の軽減をはかるため、低所得世帯の幼稚園児に対する教材費の一部として、新たに園児一人当たり年額二千四百円、または三千六百円の助成措置を講じます。

写真は第三小学校造成

消防体制を充実

消防車を増車

消防関係では、人口増加地域での消防体制の強化をはかるため、初期消火および水利不便な個所で威力を発揮する水槽付き消防ポンプ自動車を三百八十万円で購入します。

また、消防水利整備五カ年計画に基づく初年度分として防火水槽の新設二カ所、改修二カ所を三百二十七万円で行ない、消防施設の機能充実をはかります。

寝たきり老人に福音

公民館活動を活発化

老人福祉は、事業費百八十七万円を計上し、老人の活動、交流の場としての老人クラブへの助成、敬老事業を前年度に引続き行ない、六十五才以上の老人に対して、開業医者による健康診査費用を全額町で負担します。

また、寝たきり老人対策として家庭看護婦によるホーム・ヘルパー制度を新たに実施すると同時に、寝たきり老人に対する特殊寝台の貸付けを行ない、これらの事業の運営については社会福祉協議会に委託して、恵まれない老人に対処していきます。

社会教育では、予算六百九十五万円を計上し、文化的で豊かな生活の向上をはかるための活動を推し進めるとともに、急激な人口増に対し、住民の地域連帯感の醸成と強化に力を注ぎます。

したがって、住民各層を対象とする各種講座、教室を定期または随時に開催し、しかも、多数の住民の参加をはかるため旧役場庁舎を部分的に改造をはかるとして、公民館として使用し社会教育の場の充実をはかっていきます。

また、公民館分館活動をも積極的に推し進め、地域でのグループづくりを行なうとともに、横の連けいを強化して、住民間の話し合いを通じて、新旧住民の融和をはかります。そのためには、スポーツ振興に伴う効果をも期していきます。

かねてより懸案となっている、福祉施設は、建設用地として向日町行政の拠点とする福祉センターの便宜跡地の払下げについて交渉中ですが、用地確保ができしだい建設についての措置を講じていきます。

第四保育所建設場所

事務能率化に対処

町づくりの推進を果す拠点となる庁舎においては、住民サービスの向上を期し、近代的な管理方式を事務管理面に導入して、窓口事務の一元化を充実するとともに、電子計算機組織による事務処理に、さらに給与、人事管理面などを加え、情報を管理しうる体制の確立を期していきます。

文書管理では、ファイリング・システムを採用して、公文書の分類、整理、保存の充実、また物品の取扱い、運搬にも合理的な運用をはかっていくと同時に、バイク自動車の集中管理を行なうなど、行政管理全般についての近代化を推し進めていきます。

順調に改修工事進む

石田川都市下水路 延長二千六百メートルが完了

最近、急速に市街化する町の生活環境を改善するため、町の中部を東西に流れる石田川都市下水路の改修を、昭和三十七年度からの継続事業として工事を行なってきましたが、今年度で改修工事を完了します。

石田川都市下水路の改修工事がすんだところは、寺戸事務所前から東へ農業倉庫を中心とした国鉄前団地下道（一部用ノ下地域支流の合流をふくみます）までと、鶏冠井番田地下道（東側）から石橋地域までの区間で、延長二、六八二メートル、工事費四千三百六十九万円をかけて改修しました。

この石田川都市下水路の昭和四十四年度の工事費の一部は、郵政省の簡易生命保険から融資をうけています。

なお、今年度の改修工事は、前田地下道から国鉄を横断して南下し、番田地下道までの区間六二五メートルです。―写真は石田川都市下水路―

特別会計

上水道事業

上水道事業は、年々増加する水需要に対し、昭和四十三年度より五カ年計画をもって実施中の上水道第七次拡張事業も本計画の中核となる第三浄水場（物集女小学長野）が完成―上の写真―、かぶしります。

今年度は、前年度に引続き、急速の過密、高速道でん路、電気機械設備および配水池一池の建設、六〇〇ミリメートルの配水管、延長六八〇メートルのふ設、その他深井戸二眼を二億四百万円をもって実施します。

収益的収支では、拡張事業に伴う企業債利子償還金が増加、また第三浄水場運転に伴う費用の増加により非常に苦しくなってきますが、経営の健全化を推し進め、経営の合理化をはかります。

また、資本的収支では、建設費財源として起債一億九千七百万円を予定していますが、不足財源をできるだけ自己資金で充当するため、加入金を増額し、料金徴収率を高めます。

しかし、今後の上水道にとって最も重要なことは、水資源の開発ですので、早急に河川水系による水源の開発をはかり、恒久的な水資源の確保に努めます。

国民健康保険事業

国民健康保険事業は、今年度予算と前年度当初予算とを比べると財政規模において四三・五パーセントの上昇となります。これは、国保財政の九一・四パーセントを占める医療費において、昭和四十五年二月八・七七パーセントの点数改正による年度化増加分と対前年度上昇増加分とが見込まれたわけです。

このことは、今年度も一応健全財政で運営できる見通しにたったわけですが、単年度収支では相当の赤字が見込まれ、先ゆき楽観を許さない状態にあるわけです。

したがって、国の医療保険制度の抜本的改正として出された老人保険、出産育付の改善、標準保険料などの具体的改善試案に対し、住民の健康を守る立場から真の改善につながるよう努力をはらいます。

× × × ×

以上は昭和四十五年度予算のあらましの内容です。みなさんの身近なしかも必要度の高いものから順時、予算を執行していきます。

雨の日ご注意

"傘の中は目かくし
してるも同然。"

役場新庁舎

□場所はここです□

ところ　：　向日町大字寺戸小字中野20
電　話　：　931－1111番

役場新庁舎の所は左の図のとおりです。

競輪場のちょうど北側に位置しています。

○住民相談のご案内○

役場に住民のみなさんのために住民相談室を設けています。

住民相談室は、困りごと、苦情・心配ごとなどすべての相談に応じています。いつでも、お気がるにご利用してください。

〔相　談〕住民の各種申請、届に関すること。
　　苦情、相談、困りごと。
〔相談日〕毎日（執務時間中）
〔場　所〕向日町役場住民相談室（1階）

―住民課がお世話します―

◎費用は一切いりません。
秘密はかたく守ります◎